

医薬品やミルクなどの食料品

宗教委が呼び掛け

メコン川の大洪水で大きな被害が出たベトナムの子供たちにミルクを贈ろうと、県内13の宗教団体で組織する人道援助宗教委員会(委員長、宮本光研・真言宗長泉寺住職)が立ち上がった。現地では医療救援にあたるAMD Aの呼びかけに応じた。28日帰国したAMD Aの医師らによると、現地は心配された伝染病の発生はないものの、医薬品やミルクなどの食料不足が深刻化。このため、委員会は寄付やミルクの提供を広く呼びかけていく。

委員会は2月に発生した中国・雲南省大地震をきっかけに発足。宗教者が宗派を超えて国際貢献に協力しようとして、毎月2回会合を開き、連携を深めてきた。帰国したAMD Aの岩本功医師(54)、萩原陽子看護

婦(26)、及川雅典調整員(45)の会見に、委員会の黒住宗道・黒住教講師が同席。AMD Aの3人は今月20日にベトナム・ミトー市入り。24日に米10*とミルク2缶を詰めた救援バックを500個配布したほか、下痢症状などを訴える患者を診察。25日には医薬品を市内28地区に配った。岩本医師は「収穫期に田んぼが流され、食料不足が深刻。来月以降、川の水位が低下すればマラリアの発生も心配」などと、現地の状況を報告。黒住教講師は「今回は乳幼児への支援に絞った。多くの人に協力をお願いしたい」と話した。

AMD Aによると、ベトナムでは約90人が死亡し、350万人が被災。被害はカンボジア、ラオスにも及んでいる。問い合わせは、同委員会(088・284・2121)。

メコン川洪水で大被害

ベトナムに援助を



洪水に見舞われたベトナム・ミトー市で救援物資を配るAMD Aのメンバー